

巻頭言

2020年初頭から世界はCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）のパンデミックに襲われた。1年半が過ぎ、ワクチン接種が各国で進む2021年夏の今もなお、人類はパンデミックと闘っている。世界保健機構（WHO）によると、感染者数は6月8日現在1億7,300万人を超え、そのうち死者は370万人を超過するという。この1年半は未知のウィルスを恐れながらも危機を生き延びるための様々な試行錯誤を繰り返した時期でもあった。

しかし、振り返ってみると、こと日本においては、あまり誇れるような出来事は思い浮かばない。クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の乗客と乗員への悲惨な対応、いわゆる“アベノマスク”問題、突然の学校休校、検査と病床の不足、経済最優先の未熟な政策など、次々失敗する政策に翻弄され、この後の方向性が見えずに不安な日々が続いた。私たちの日常は大きく変化し様々な矛盾や構造的不平等が露わになった。ケアや社会的必須労働（essential worker）の役割に注目が集まったのは幸いだったが、不安定で低賃金の労働条件や、人との接触による高い感染リスクに晒されている実態には十分な関心が払われてこなかった。経済活動の再開に重きが置かれた回復はそれらの問題をさらに深化させることになりかねない。経済力を持つ裕福な国々が先にワクチンを確保し、いち早く経済復帰しつつある現状は、そのような懸念が現実化しているといえよう。

パンデミックによって突きつけられた未曾有の課題を、我々はどのように受け止めてどのように向き合っていくべきか。『ジェンダー研究』24号ではその議論の場を提供すべく特集「パンデミックとジェンダー」を企画した。現在進行中の緊急性のあるテーマを取り上げるため、前号に続いて24号でも特集テーマで投稿論文を募った。その結果、経済・政治分野で2本の研究論文を掲載することができた。金井論文は生命保険業界のミクロな労働現場の変化を緻密に追って、地域限定で対面を重視する女性労働者の営業方法が対面を禁止する方策によって打撃を受けているのに対して、営業地域を限定せずにIT技術を駆使してきた男性中心の営業にはむしろ発展の機会を与えていることを明らかにした。また、本山論文はケアエコノミーを理論化したフェミニスト政治経済学の知見を評価したうえで、パンデミックに対するフェミニスト知がどのように生産されているのかを検討した。「フェミニスト的な」知も一枚岩ではなく「ケアエコノミー」に対する認識の違いによって未来への処方箋も異なることを、言説分析を用いて解明した。

今号は、パンデミックが及ぼした影響を多角的に検討するために、特集の研究論文以外にも、研究ノート、現場報告、資料紹介の枠をもうけた。現場の調査報告や海外事情の紹介もあり、パンデミックの世界的規模や地域によって異なる状況が窺える。また、ジェンダー研究の観点から選定した幅広い分野の書評も充実している。

『ジェンダー研究』の編集事務局は今年も素晴らしいチームワークを発揮してくれた。暗い時代と一緒に働き抜く勇氣は、信頼と使命感に基づくチームワークから生まれてくる。表紙から編集後記まで共同作業の実りが感じられる24号になったと誇りたい。

1 巻頭言 申 琪榮

特集

パンデミックとジェンダー

▶ 研究論文

- 5 コロナ禍の生命保険営業における「対面」営業の変化

金井 郁

- 25 危機としてのコロナ・パンデミックとフェミニスト知

本山 央子

▶ 研究ノート

- 47 カラ・ウォーカーによる《フォンス・アメリカヌス》(2019)

——パンデミック下のイギリスにおけるBLM運動の視点から

内山 尚子

- 57 COVID-19がジェンダー施策に与える影響——ドイツの男女平等戦略を巡る現状報告

佐野 敦子

- 67 COVID-19と「ホーム」——フェミニスト地理学の視点から

倉光 ミナ子

▶ 現場報告／事例報告

- 75 パンデミックを生き延びる——マニラ首都圏都市底辺層女性のロックダウン下の日常生活経験から

小ヶ谷 千穂／ロレイン・モラレス

- 83 コロナ禍のシングルマザー調査プロジェクト——1800人の実態調査から見えてきたこと

五十嵐 光／石本 めぐみ

- 89 パンデミック期の北京で生きる医師たちの日常

大友 聡

投稿論文

- 95 「Xジェンダーであること」の自己呈示——親とパートナーへのカミングアウトをめぐる語りから

武内 今日子

- 113 腐女子の「ファンタジー・トラブル」——身体・欲望・妄想をめぐるBLファンタジーの存在論

張 瑋容

- 131 女性発達障害児者を支援者はどのような対象として考えているのか

——支援者に残るジェンダーバイアスとその再生産

向井 理菜

- 153 若者の性の問題化の構造——保健体育科教科書における性感染症の記述を例に

反橋 一憲

- 171 ポストフェミニズムとしてのトランス?——千田有紀「女」の境界線を引きなおす」を読み解く

藤高 和輝

書 評

- 189 ケイト・マン著／小川芳範訳, 2019,『ひれふせ、女たち ミソジニーの理論』慶應義塾大学出版会.
林 美子
- 192 Koikari Mire 著, 2020, *Gender, Culture, and Disaster in Post-3.11 Japan*, Bloomsbury Academic.
高橋 麻美
- 195 ジョアン・C・トロント著／岡野八代訳・著, 2020,
『ケアするのは誰か？新しい民主主義のかたちへ』白澤社発行／現代書館発売.
山根 純佳
- 198 戒能民江／堀千鶴子著, 2020,『婦人保護事業から女性支援法へー 困難に直面する女性を支える』信山社.
小川 真理子
- 201 小浜正子著, 2020,『一人っ子政策と中国社会』京都大学学術出版会.
田間 泰子
- 204 シンシア・エンロー著／佐藤文香監訳, 2020,
『〈家父長制〉は無敵じゃない 日常からさぐるフェミニストの国際政治』岩波書店.
児玉谷 レミ
- 207 中嶋泉著, 2019,『アンチ・アクション 日本戦後絵画と女性画家』ブリュッケ.
小勝 禮子
- 210 跡部千慧著, 2020,『戦後女性教員史 日教組婦人部の労働権確立運動と産休・育休の制度化過程』六花出版.
佐藤 智美
- 213 Cynthia J. Cranford 著, 2020,
Home Care Fault Lines: Understanding Tensions and Creating Alliances, Cornell University Press.
大野 恵理
- 216 鈴木彩加著, 2019,『女性たちの保守運動 右傾化する日本社会のジェンダー』人文書院.
具 裕珍
- 219 熊本理抄著, 2020,『被差別部落女性の主体性形成に関する研究』解放出版社.
徐 阿貴
- 224 編集後記
- 226 編集方針・投稿規定

